

## 1 情報リテラシー教育の課題

### 1.1 情報リテラシーの定義上の問題

#### (1) 図書館界での状況

わが国の図書館界で、「利用者教育」よりも「情報リテラシー教育」が主流となり始めたのは、2003年頃からであろう。<sup>1)</sup>これは、国立情報学研究所で「学術情報リテラシー教育担当者研修」を実施し始めたのと、相応する時期となる。以来6年間で、上記の学術情報リテラシー教育担当者研修の修了者は600名を超えるとともに、図書館の現場で様々な取り組みが行われるようになった。また、情報リテラシーに関する数多くの文献が発表されている。<sup>2)</sup>そして、文部科学省の『平成19年学術情報基盤実態調査』（2007年）の結果をみると、全大学（747）のうち情報リテラシー教育を実施しているのが93.6%（699）という結果になっている。

しかしながら、上記調査での実施内容を見てみると、ネットワーク技術が70.4%（526）、情報倫理・マナーが60.9%（455）、学内システム等の利用方法が58.9%（440）となっており、情報探索技術は46.7%（349）にとどまっている。<sup>3)</sup>

さらに、『学術情報基盤の今後の在り方について（報告）』（2006年）の評価としては、「現時点で、**多くの大学で行われている（図書館の）情報リテラシー教育は教養教育及び各専門分野における教育との連携が不十分であり、効果が限定的である**」という指摘をうけている。<sup>4)</sup>一見普及しているように見えながら、なぜこのように情報リテラシー教育は進展していないのであろうか。

ここで再確認すると、北米大学図書館協会（ACRL）の定義では、「情報リテラシーとは、情報の必要性を判断し、アクセスし、評価し、効率的に使用することができる能力のこと」である。自主的な学習において、学生が能動的に図書館などにある情報源を調査・評価して、それをまとめ上げる学習力といってもよからう。

なお、情報リテラシーとは、米国の図書館界から出現した言葉である。1989年に出版された”Information literacy”（邦訳は『情報を使う力』、1995年）がその言葉の普及に力があつたものと考えている。<sup>5)</sup>これ以降、いくつかの大学でライブラリアンが主導する形で、情報リテラシー教育を大学に普及させてきた。米国のアールム・カレッジの事例などは、非常に優れた情報リテラシー教育となっている。<sup>6)</sup>

#### (2) 大学教育界での認知

一方、文部科学省の認識では、情報リテラシー教育の「教育内容としては、学内LANを利用するために必要な操作方法・技術・ルールや、情報セキュリティ、倫理・マナーなどが行われて」いるとなっている。<sup>3)</sup>これは、単なるコンピュータもしくはネットワーク・リテラシーにすぎないことは明白である。確かに大学教育の現状を見ても、コンピュータ

利用教育にすぎない「情報処理」科目だけが、基礎的な情報教育と位置づけられている場合が多いと感じていた。

20年前に出版された『情報を使う力』では既に、「**情報社会において効果的に活動するためには、コンピュータ・リテラシー以外にも多くのものが必要である**」と指摘している。そして、次のように的確な高等教育観を示している。

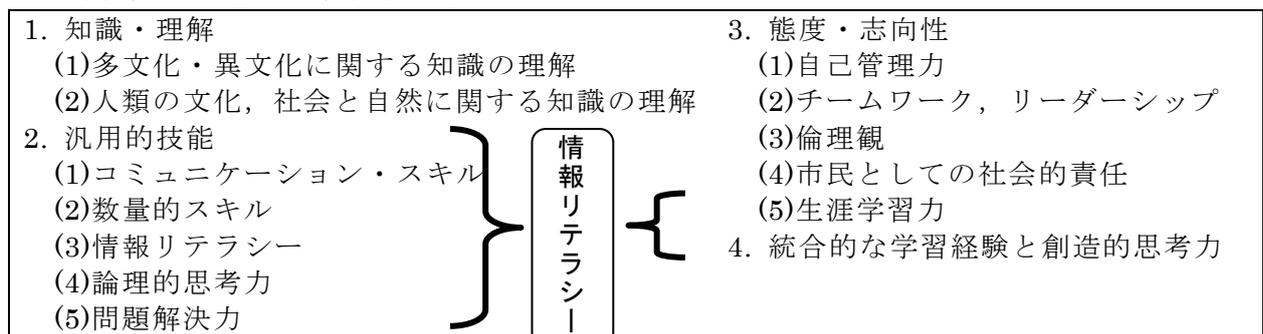
「ものごとを深く考える図書館員たちは、コンピュータ・リテラシーが実際のところ情報リテラシーの一部分に過ぎないということ認識している。彼らは情報社会が求めているのはコンピュータをつかいこなすだけの人間ではなく、情報をも使いこなすことのできる人間であるということにすぐに気がついたのである。図書館員たちは、こうした違いに大学管理者たちよりも早く気がついたが、それは彼らの方が賢いとか、読みが深いとかいう理由からではなく、情報管理が彼らの専門領域だからである。図書館員たちは常日頃、情報リテラシーを学んだり教えたりしているのである。」<sup>5)</sup>

図書館員としては嬉しい限りの見識であるが、私たちは本当に情報リテラシーを学んだり教えたりできているのかどうか、再度問わなければならない言葉であろう。

### (3) 「学士力」と情報リテラシー

さて、2008年の中央教育審議会・大学分科会では、大学の教育課程を見直す中で、大学の「各専攻分野を通じて培う学士力」について審議してきた。その学士力とは、具体的につきのような内容にまとめられている。

#### ◆各専攻分野を通じて培う学士力



そして「2 (3)情報リテラシー」の内容は、「情報通信技術 (ICT) を用いて、多様な情報を収集・分析し、理解し、表現することができる」となっているのである。この定義が、コンピュータ・リテラシーに毛の生えた程度のものであることは、前述した通りである。

実は、上記の学士力でいうところの「2 汎用的技能」全体と、「3 (5)生涯学習力」、「4 統合的な学習経験と創造的思考力」の部分を合わせたところが、本来の意味での情報リテラシーに相当する能力なのである。「汎用的技能」などと称するよりは、よほど明確な定義となるであろう。一刻も早く、「情報リテラシー」の定義のし直しを求めたいところである。

## 1.2 大学教育と連携するために

### (1) オープン教育との共通性

情報リテラシーという言葉は、大学教育で現在実施されている科目名としても、先端的な教育の取り組みを支援する補助金である特色 GP (グッド・プラクティス) や教育 GP

の名称としても、使われている事例はない。しかし、これら教育方法の改善工夫の取り組みである GP においては、自主的・主体的な学習や体験型学習・地域連携型の学習などの、講義聴講型ではない、いわゆる「オープン教育」的な手法が多いことに気がつくであろう。

このオープン教育とは、学習者の自主的学習に重点をおき、一人一人の個性と独自性を尊重するものである。そして、思考力の発達を図ることを基本とし、学習者の興味や関心にそって多様な教材により学習を進めるものである。本来、小中高などの学校教育で提唱されたものであり、1980年代から日本の学校教育にもとりいれられてきた教育手法であった。この学校教育の手法が、いまや大学教育に波及してきたと見るのできるのである。

このようなオープン教育の趣旨を考えると、それが自主的な学習能力の習得を目標とする情報リテラシー教育と酷似していることに気がつく。情報リテラシー教育が達成すべき能力側に視点があるのに対し、オープン教育はプロセスとしての手法側に視点があるだけで、**自主的学習により学習者の興味や関心そって多様な教材（＝図書館などの情報源）を活用して学習能力を高めるという点では共通している**のである。

## (2) 図書館を中心とした学習に向けて

このように、図書館界の情報リテラシーと教育界のオープン教育の共通性・類似性が明らかになったからには、図書館界は大学におけるオープン教育に歩み寄る必要がある。そうすることにより、図書館界が望んでいる情報リテラシー教育が、大学教育のなかで実現していく可能性が生まれるのである。

実は、その優れた実現事例は、すでに学校教育のなかに存在している。

山形県鶴岡市立朝陽第一小学校では、学校図書館を学校経営の中核にすえて、学校図書館の資料を最大限に活用した学習や、さかんな読書活動を展開している。2003年に第33回学校図書館賞の大賞を受賞したこの学校図書館の活動は、まさにオープン教育の手法で生徒の情報リテラシー習得を目的とした内容となっている。<sup>7)</sup> なお、この活動の発端となったのは、五十嵐氏という一人の優れた図書館司書であったことを銘記しておきたい。<sup>8)</sup>

そうすると次は、大学教育で同様の試みを実現する時代になってくると考えている。お茶の水女子大学、明治大学、東京女子大学などでの、図書館が大学の GP に関与したり、GP の中心となる取り組みは、その端緒となるものであろう。

このように大学図書館は、図書館単独の世界から一步踏み出し、大学の教育に積極的に関わっていく必要があると考えている。そして、**大学教育がオープン教育の手法により情報リテラシーの習得を目指すようになった時、私たち図書館員は進んでそれに寄与できる意欲と能力を備えておく必要がある**のではないだろうか。そのためにも、高等教育に関するフォーラムや学会などで、情報リテラシーに関する図書館界の取り組みを積極的に発表し、情報交換を行っていくことを望みたい。

## 2. ラーニング・コモンズの意味

### 2.1 学習の場としての図書館

#### (1) 図書館を情報源とする情報リテラシー

さて、「1.2 (1) オープン教育との共通性」で論じたように、情報リテラシー教育とは自主的学習により、学習者の興味や関心にそって多様な情報資源を活用して学習能力を高め

るものである。そして、そのようにして身につけた情報リテラシーは、生涯活用できる「生涯学習力」となるのである。

このとき活用する情報資源としては、もちろんウェブなどの情報も考慮されるべきであるが、まずは図書館の情報資源を最大限活用するスキルを身につけるべきであろう。なぜならば、『情報を使う力』が論じているように、「図書館はすべての学問分野の知識が有意義な枠組みの中で関連づけられている場」であり、「図書館は卒業した学生が働き、生活していかなければならない情報環境のモデルを提供する」からである。<sup>5)</sup> すなわち、**卒業後も引き続き利用可能な情報源である図書館は、在学中に身につけた情報リテラシーを保証するものとして機能するのである。**

## (2) 自立的学習の場としての図書館

それでは、大学のなかで自主的学習としての情報リテラシー教育を行う場は、いったいどこなのであるか。まずは、オープン教育の手法で授業を行う講義室が、その場になると考えられる。この講義室では、教員が授業という形式で、情報リテラシーを習得できるようにデザインした学習が行われる。この場合学生は、あくまでも教員がデザインした学習プロセスに従って、自主的な学習を行うことになるのである。

これに対して図書館は、学生が学習プロセスを自ら考えつつ学習する、もう一つの自主的学習の場として存在する。教員にたよらないという意味で、究極の自主的学習の場であるといえよう。この点から、最終的に**情報リテラシーを身につけ高めるための場としては、学生が自主的かつ自立的に学習を行う図書館が、もっとも適切である**ことになる。

それでは図書館は、従来通りに図書・雑誌の貸出・閲覧や、閲覧席の提供を行っていけば、自立的学習の場として機能するのであるか。実はここに、近年ラーニング・コモンズという新たな図書館スペースが登場してきたことの意味があるのである。

## 2.2 教育の場としてのラーニング・コモンズ

### (1) ICT時代にふさわしい自立的学習スペース

ラーニング・コモンズは、ICT (Information and Communication Technology) 設備をそなえた学習スペースで、学生の学習支援を行う役割を担う。具体的には、従来図書館が提供していた個人で利用するパソコン卓やグループ学習室に加えて、グループで利用できるパソコンテーブル (欧米では「PC クラスタ」ともいう) や PC 教室、さらにはプレゼンスペースやオープンスペース、ラウンジ、カフェなどを備えて、長期滞在型の学習支援エリアとして機能するものである。

**現代の大学生の学習活動において、ICT 機器は不可欠のもの**である。レポートやプレゼン資料などの課題作成のほか、e ラーニング科目の受講やオンライン語学教材の利用、教務情報の入手や履修科目の選択、学生ポータルの利用や教員・友人とのメール連絡など、学生生活のあらゆる局面で ICT 機器が必要となっている。このことから、図書館は ICT 機器を積極的に導入した学習スペースを提供する必要があるのである。

### (2) 自立的学習を支援する新たなサービス

そして、ラーニング・コモンズにとってさらに重要な要素は、**従来の図書館サービスの**

**領域を超えるような、ICT 利用支援や学習アドバイス、ライティング支援などを行うこと**と考えている。単に設備や機器の提供にとどまらず、そのような新たな学習支援サービスを行うことが重要なのである。これは、図書館の学習支援機能を拡大して行く試みと位置づけられる。

そして、実施にあたっては、図書館職員だけで行うのではなく、教員の協力を得たり、学生スタッフの力を活用しつつ協働して展開することが望ましいであろう。そのような実施体制をとることにより、図書館はいままで以上に大学の教育活動と融合し、新たな役割を担っていくことになるのである。

**ラーニング・コモンズのような場を設置することで、学生の情報リテラシー習得や、大学が展開しつつあるオープン教育を大学図書館が支援する機会が、より一層増加するであろう。**それぞれの図書館で、どのようなラーニング・コモンズが設置可能かを、思いめぐらせる必要があると考えている。<sup>9)10)</sup>

参考文献・引用文献：

- 1) 野末俊比古, 利用者教育:「情報リテラシー」との関わりを中心に, カレントアウェアネス, 278, 2003, 15-18p.
- 2) 米澤誠, 学習・教育基盤としての図書館, カレントアウェアネス, 296, 2008, 23-28p.
- 3) 文部科学省, 平成 19 年学術情報基盤実態調査 (旧大学図書館実態調査), 2009, (オンライン) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/001/index20/1260269.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/index20/1260269.htm)
- 4) 科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会, 学術情報基盤の今後の在り方について (報告), 2006, (オンライン) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm)
- 5) パトリシア・セン・ブレイビク, E.ゴードン・ギー, 情報を使う力, 勁草書房, 1995
- 6) 長澤多代, アーラム・カレッジの図書館が実施する学習・教育支援に関するケース・スタディ, *Library and information science*, 57 号, 2007, 33-50p.
- 7) 山形県鶴岡市立朝暘第一小学校編, こうすれば子どもが育つ学校が変わる, 国土社, 2003
- 8) 五十嵐絹子, 夢を追い続けた学校司書の四十年: 図書館活用教育の可能性にいどむ, 国土社, 2006
- 9) 米澤誠, ラーニング・コモンズの本質: ICT 時代における情報リテラシー/オープン教育を実現する基盤施設としての図書館, 名古屋大学附属図書館研究年報, 第 7 号, 2009, 35-45p.
- 10) 米澤誠, ラーニング・コモンズは図書館活性化の起爆剤となるか, 丸善ライブラリーニュース, 第 5 号, 2009, 12-13p.

# 大学図書館の学習支援

国立情報学研究所  
 学術基盤推進部 学術コンテンツ課  
 米澤 誠

## A. ラーニング・コモンスの本質

### 1.1 大学教育のオープン化(1)

山形大学教養棟

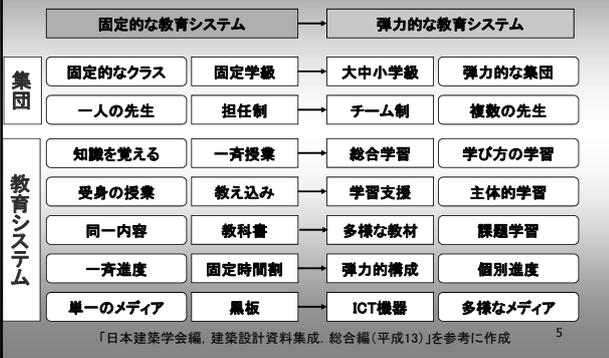


### 1.1 大学教育のオープン化(2)

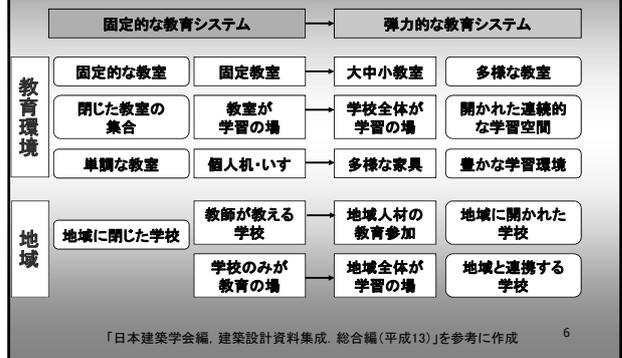
東京大学アクティブラーニングスタジオ



### 1.2 教育システムのオープン化(1)



### 1.2 教育システムのオープン化(2)



### 1.3 学校図書館のオープン化(1)

中央大学附属高校



50台の端末を使った調べ学習

年間100冊の必読書

7

### 1.3 学校図書館のオープン化(2)

発表型の授業ができるスペース



3年生には8千字の課題レポート

8

### 1.3 学校図書館のオープン化(3)

恵泉女学園中高校



図書館と同一フロアに2教室

9

### 1.3 学校図書館のオープン化(4)



PC実習室も2教室

10

## 2.1 自主的学習の場としてのLC

「学生が自主的に問題解決を行い、自分の知見を加えて発信するという学習活動全般を支援するための施設とサービス・資料を提供する必要がある」

自主的学習の支援

「図書館のインフォメーション・commonsを多く利用するのは学部学生となり、図書館はそこに限定したサービス展開を行うことができるようになった」

学部学生の支援

・米澤誠、インフォメーション・commonsからラーニング・commonsへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援、カレントアウェアネス、289、2006

11

## 2.1 自主的学習の場としてのLC

「とくに学生の学習・研究活動を向上させ十分な成果を獲得させるには、学生が必要とする人的支援が必要であり、そのような支援が備わっているインフォメーション・commonsがとくに高い評価を得ている。これらがときに『ラーニング・commons』と呼ばれることもある」

「ラーニング・commonsとは、したがってインフォメーション・commonsをさらに展開して、学生の主体的な学習活動を重視したものだといつてよい」

・永田治樹ほか、今後の「大学像」の在り方に関する調査研究（図書館）報告書：教育と情報の基盤としての図書館、筑波大学、2007

12

## 2.2 自主的学習の支援論（井上氏）

「これは『学習の場』としての図書館、創造的空間としての図書館を取り戻そうとする動きの中から生まれた」

「大学では（中略）一方的に講義を聴く従来の教育方法から脱皮し、グループ討議などコミュニケーション能力を重視して、問題を解決していく学習方法が注目を浴びている。つまり、『学びの身体技法』を知り、充実した学習体験を得られる場、これを図書館が提供したいのだ」

・井上真琴、学習と知の創造空間：ラーニング・commons（これからの図書館を探して）、ミネルヴァ通信、2007(6)、2007

オープン教育の場

問題解決型学習の支援

13

## 2.3 自主的学習の支援論（佐藤氏）

「大学図書館が学生の学習成果を高めるために、学習成果のアウトプットの過程そのものを支援することへ舵を切ることなのである」

学びへの参画意識

「この点を意識して、図書館が新しい『学びの場』だけでなく、新しい『学び』に関するビジョンを持ってラーニング・commonsに取り組めば、大学図書館が高等教育改革の中心に位置することも夢ではない」

・佐藤翔、「学びの場の新しいカタチ」と「新しい学びのカタチ」、大学の図書館、27(8)、2008

14

## 3.1 LCの事例(1)

神田外語大学7号館



15

## 3.1 LCの事例(1)

7号館・図書館



16

## 3.2 LCの事例(2)

神田外語大学6号館



SACLA: Self-Access, Communication, Learner Autonomy

17

## 3.2 LCの事例(2)

SACLA1階・メディアセンター



18

### 3.3 LCの事例(3)

SACLA2階・ランゲージセンター



19

### 3.3 LCの事例(3)

レベルに応じた自習教材の提供



20

### 3.3 LCの事例(3)



フレキシブルな多機能教室

21

### 3.3 LCの事例(3)

ラウンジでの教員の個別指導



22

### 3.3 LCの事例(3)

モジュール教材



23

### 3.3 LCの事例(3)

添削指導ボックス



24

#### 4.1 生活の場の必要性(1)

山形大学リフレッシュルーム



学生が求める生活の場

25

#### 4.1 生活の場の必要性(2)

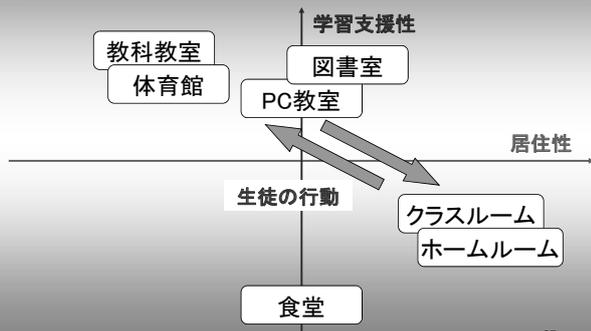
東京大学アクティブラーニングスタジオ



リラックスして学習できる場

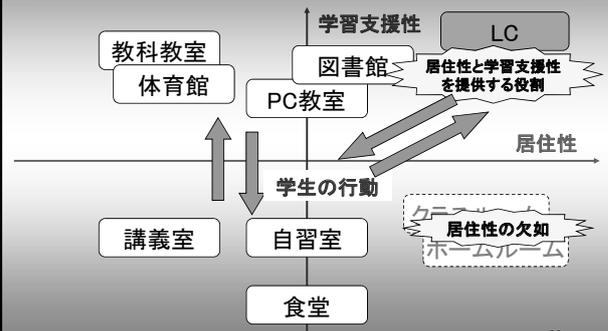
26

#### 4.2 学校のラーニング・スペース



27

#### 4.3 大学のラーニング・スペース



28

#### 4.4 生活の場としてのLC (江上氏)

学生生活への問題意識

「要するに、それまで学生にとって長時間集中して学習できる居場所がほとんどなかったところへ、場所、機器、人的サービスのそろったLCが誕生した、ということになる。その成功はあらかじめ約束されていたようなものだろう」

「昨今話題となりがちなLCや図書館カフェだが、たんなる図書館生き残り策としてではなく、キャンパス内やその周辺を含めて、学生の居場所がどこにどれだけあるか、学生の生活と行動に見合っているか、全体のバランスの中で議論すべき問題ではないだろうか」

・江上敏哲, UMass Amherstのラーニング・コモンズ: 94%の学生が週1で訪れる場所, 大学の図書館, 27(8), 2008

29

#### 4.5 生活の場としてのLC (ヨコタ氏)

大学コミュニティという視点

「学部生に、『安心感と帰属感を得られる居場所』を提供できるように努めている」

「広大なキャンパスの中で孤立感を感じずに、そこに行けば友人がいる、自分の将来の成功を願い、笑顔で自分を迎え、勉強を助けてくれる大人(ライブラリアン)が必ずいるという安心感を提供したいと願っている。図書館は学生にとって集いの場以上の『第二のホーム』でありたい」

「大学全体のコミュニティを育てるためにも図書館が果たせる役割は無限にあることだろう」

・ヨコタカーター啓子, 図書館=大学の知的交差点(世界基準の図書館情報サービス, 第2回), 情報管理, 51(7), 2008

30

#### 4.6 生活の場としての学校図書館

恵泉女学園中高校

生活の場と一体になったロケーション



31

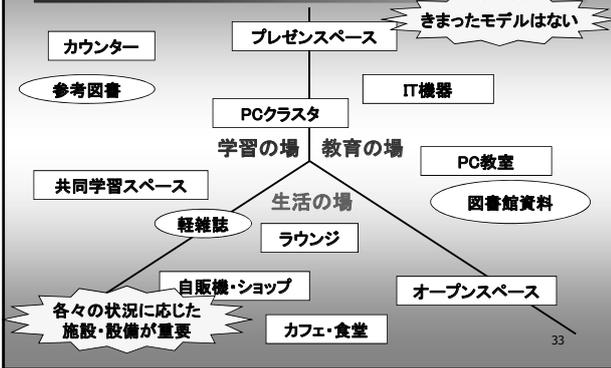
#### 4.6 生活の場としての学校図書館

いつも視野に入る図書館



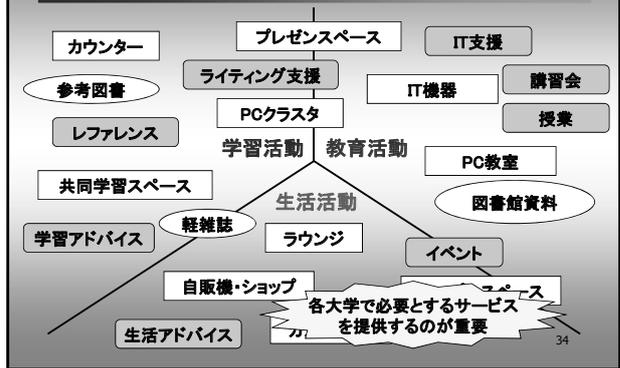
32

#### 5.1 LCの構成要素



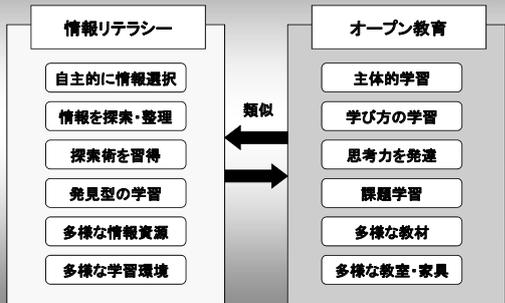
33

#### 5.2 ハードからサービスへの展開



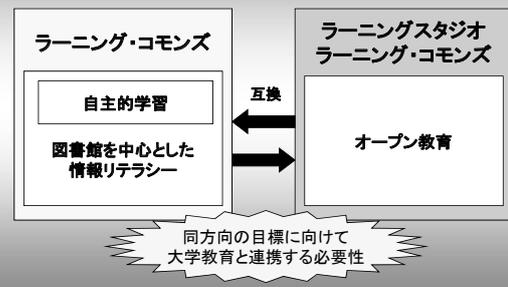
34

#### 6.1 情報リテラシーとオープン教育



35

#### 6.2 ラーニング・コモンズの本質



36

## B. ライティング能力の向上を コアとした情報リテラシー教育

37

### 1.1 「学士力」との関連(1)

- 2.汎用的技能  
(3)情報リテラシー

情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に利用することができる。

これはコンピュータリテラシーにすぎない

中央教育審議会大学分科会資料『学士課程教育の構築に向けて答申』(2008)から 38

### 1.2 「学士力」との関連(2)

各専攻分野を通じて培う学士力

- 1.知識・理解  
2.汎用的技能  
(1)コミュニケーション・スキル  
(2)数量的スキル  
(3)情報リテラシー  
(4)論理的思考力  
(5)問題解決力

本来はこれら全体が  
情報リテラシー

中央教育審議会大学分科会資料『学士課程教育の構築に向けて答申』(2008)から 39

### 2.1 私の授業実践例

テキスト履修科目「図書館経営論」における学習方法

- ・自分のホームライブラリーを選択

①「現状と特色」について、文献収集と取材などでレポートを作成（3千字程度）

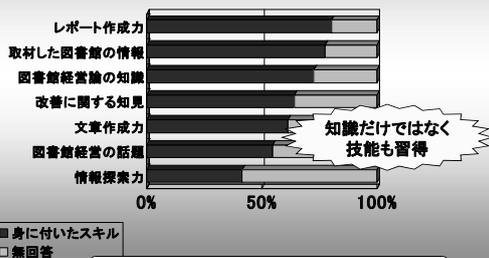
②「課題と改善策」について、文献を援用して考察し、レポートを作成（5～8千字程度）

八洲学園大学eラーニング授業の事例

40

### 2.2 履修生アンケートの結果 (1)

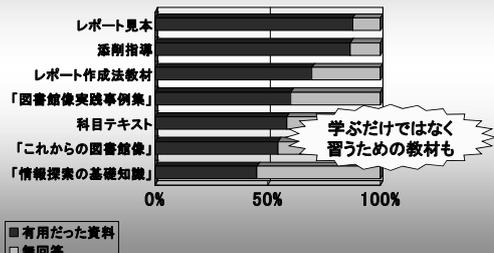
1名につき、平均4.5項目のスキルが身に付いたと回答



41

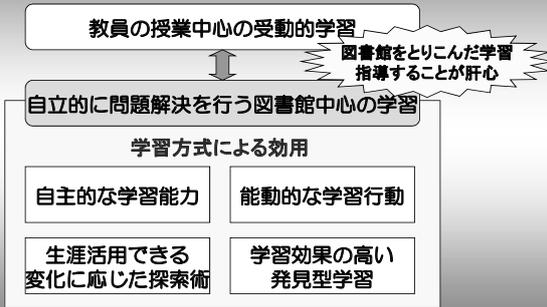
### 2.3 履修生アンケートの結果 (2)

1名につき、平均5.9の教材を有用と回答



42

### 3.1 図書館を中心とした情報リテラシー



ブレイビク、ギー著『情報を使う力』(勁草書房, 1995)から作成

43

### 3.1 図書館を中心とした情報リテラシー



ブレイビク、ギー著『情報を使う力』(勁草書房, 1995)から作成

44

### 3.2 情報リテラシーの定義

「情報リテラシーとは、情報の必要性を判断し、アクセスし、評価し、効率的に利用することができる能力のことである」

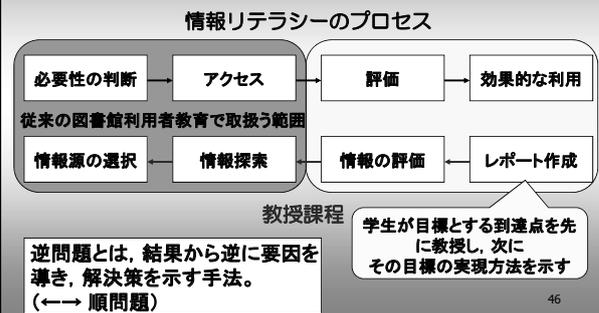
北米大学図書館協会 (ACRL) の定義

「教育内容としては、学内LANを利用するために必要な操作方法・技術・ルールや、情報セキュリティ、倫理・マナーなどが行われています」

文部科学省『学術情報基盤実態調査』

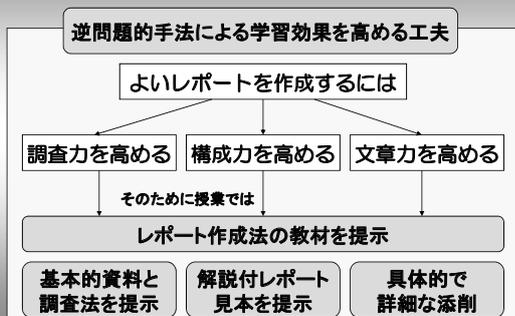
45

### 3.3 逆問題的手法による改善



46

### 3.4 授業実践上の工夫



47

### 4.1 ライティング指導方法

#### 「図書館経営論」におけるライティング指導方法

①文献の事実に基づいた、客観的な記述方法と体裁・文章の基本を徹底指導 (=知識伝達型ライティング指導)

②文献の事実と意見を援用した上での、自分の意見の論述の基本を徹底指導 (=知識形成型ライティング指導)

八洲学園大学eラーニング授業の事例

48

## 4.2 ライティング指導の実際(1)

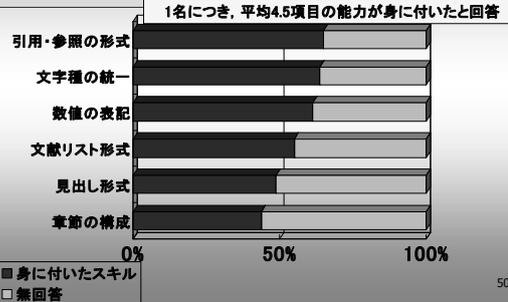
### 知識伝達型 (knowledge-telling) ライティング能力(1)

- 体裁:
  - ・英数字などの文字種を統一して表記する
  - ・数値の表記を統一する
  - ・レポートの全体構成を整えて記述する
  - ・インデントや行あけなど、読みやすいレイアウトを整える
  - ・見出しを整えて記述する
  - ・章・節を適切に構成する
  - ・複数文章の文意のまとまりで段落を構成する
  - ・本文中で引用・参照した文献を、注番号をつけて記述する
  - ・整った形式で文献リストを記述する

49

## 4.2 ライティング指導の実際(1)

### 知識伝達型 (knowledge-telling) ライティング能力(1)



50

## 4.3 ライティング指導の実際(2)

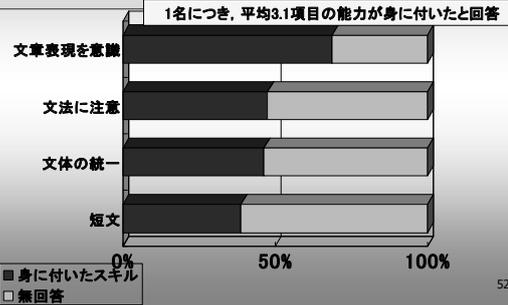
### 知識伝達型 (knowledge-telling) ライティング能力(2)

- 文章
  - ・文体を統一する
  - ・文章表現を意識して記述する
  - ・短文を心がける
  - ・読点に注意して記述する
  - ・受動態や主語・述語の一致など、文法に注意して記述する
  - ・推敲する

51

## 4.3 ライティング指導の実際(2)

### 知識伝達型 (knowledge-telling) ライティング能力(2)



52

## 4.4 ライティング指導の実際(3)

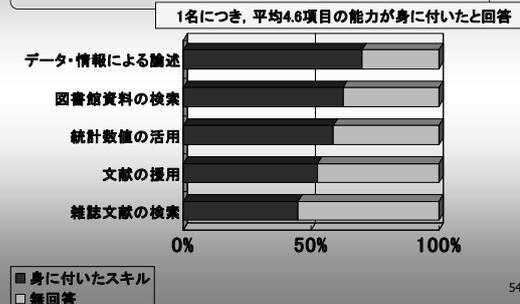
### 知識形成型 (knowledge-transforming) ライティング能力

- 内容
  - ・経験や感想だけではなく、文献や資料のデータ・情報を活用して論述する
  - ・統計的数値の比較により論述する
  - ・取材したデータにより論述する
  - ・事実(もしくは他人の意見)と自分の意見を切り分けて表現する
  - ・文献にある考え方やよい実施事例を援用して論述する
  - ・図書館の実情に則した具体的な施策の提案をする
  - ・信頼できるウェブ情報だけを活用する
  - ・「雑誌記事索引」などで雑誌文献を探索する
  - ・雑誌論文のコピーを入手する

53

## 4.4 ライティング指導の実際(3)

### 知識形成型 (knowledge-transforming) ライティング能力



54

### 5.1 ライティング能力の分類



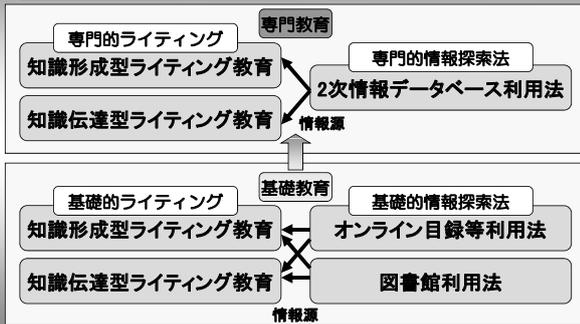
井下千以子著『大学における書く力考える力』(東信堂, 2008)の図表を参考に作成 <sup>55</sup>

### 5.2 ライティング教育の具体的事例



井下千以子著『大学における書く力考える力』(東信堂, 2008)の図表を参考に作成 <sup>56</sup>

### 5.3 情報リテラシー教育のデザイン



57

2006年秋期履修生

### 6 履修生からのコメント

- ・レポートを書くために、様々なことを調べたり取材して、今まで漠然と利用していた図書館のことを、良く知ることができた。
- ・テキストで知識を学ぶだけではなく、自分の頭で考えたり、色々な資料を調べたり、図書館員にインタビューしたりと、実践を伴った科目だった。
- ・与えられた課題をこなすのではなく、学ぶ姿勢・楽しさを教えていただいた。
- ・足を使ってレポートを完成する楽しさを知りました。
- ・レポートの枚数も多く大変でしたが、実力がついたと思います。
- ・苦しくも達成感のある科目でした。さみしい気持ちがあります。

58

## C. 大学教育活動と連携するための 展望と戦略

59

## 1. 大学教育界の動向

60

### 1.1 大学教育研究フォーラムでのテーマ(1)

- ICTを活用した組織的FD活動
- 批判的思考力の育成のための教育実践と認知的基礎
- 大学での学習空間の創出
- ティーチング・ポートフォリオ

「第15回大学教育研究フォーラム発表論文集」(京都大学, 2009年3月20~21日)から 61

### 1.1 大学教育研究フォーラムでのテーマ(2)

- 教員養成学部におけるPBL教育の意義
- FDに関わる若手教員の現在と未来
- 学生と変える大学教育
- 授業の中で学生の何が育てられているか

62

### 1.2 大学教育学会でのテーマ(1)

- 大学体育教員の養成と採用, FD, 評価
- 学生と変える大学教育:FDを楽しむという発想
- 共通教育のマネジメント
- 授業方法としてのワークショップ
- FDネットワークの可能性を拓く

「第31回大学教育学会大会発表要旨集録」(東京首都大学, 2009年6月6~7日)から 63

### 1.2 大学教育学会でのテーマ(2)

- FDプログラムの開発を支援する
- 教員が求める職員像 職員
- TAの業務範囲と研修について
- 一般教育の知的遺産を活かす
- 学部, 事務局, 教員, 学生が連携する英語教育改革実施のあり方 職員

64

### 1.2 大学教育学会でのテーマ(3)

- 教育改善のための教育情報アーカイブス
- 学生の多様化に対応する初年次教育システムの構築と実践
- 学生の目を輝かせる大学教育の可能性: 大学職員の教育支援のあり方 職員
- ライティング教育を基点とした学習支援とFD活動の展開 図書館
- 今, なぜリベラルアーツ: 21世紀型リベラルアーツの再構築 65

### 1.3 ライティング教育を基点とした...

#### 企画の趣旨

これまでのライティング教育では、初年次におけるレポートの書き方など学習技術が重視されてきたが、内容を深めていくには、学士課程4年間に渡り、学生の思考の発展やアイデンティティの発達もつなげる幅広い指導が求められる。そうであるなら、そのことに基礎教育を担当する教員だけでなく、専門教育を担当する教員もどのように取り組んでいるのか、相互に学びあうFD活動が必須となる。すなわち、わが国のFD活動の今後の展開において、ライティング教育はひとつの中心的な活動領域になると考えられる(井下, 2008『大学における書く力考える力ー認知心理学の知見をもとに』)。

「第31回大学教育学会大会発表要旨集録」(東京首都大学, 2009年6月6~7日)から 66

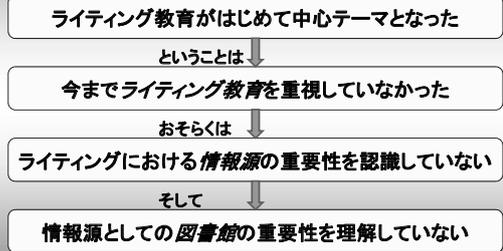
### 1.3 ライティング教育を基点とした...

#### 報告内容

- ①名古屋大学における学生論文コンテストと論文書き方講座の取り組み  
近田政博(名古屋大学 高等教育研究センター)
- ②ライティング教育における大学図書館の役割と教育活動支援に向けた取り組み  
長澤多代(三重大学 高等教育創造開発センター)
- ③北米におけるTeaching & Learning Centerの活動とラーニング・ポートフォリオの活動  
土持法一(弘前大学 21世紀教育センター)

67

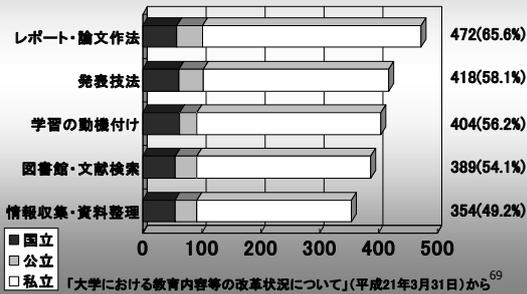
### 1.4 大学教育における図書館



68

### 1.5 初年次教育の取組状況

#### 初年次教育の具体的内容(平成19年度)



69

## 2. 教育と大学の連携事例

70

### 2.1 パスファインダー

検索資料ナビゲータ(Path Finder) 教養コア科目C(芸術と文化)

江戸小説を読む1・2  
 市亭見聞村田見聞八次郎  
 次2 高木元先生

キーワード: 近世文学 江戸時代小説 徳川はみほり人 市亭見聞 伝奇小説 歴史小説 市亭見聞八次郎(八次郎) 19世紀文学

Web: <http://www.finkawa.net/index.html>

自蔵書: <http://www.mimura.ac.jp/~lib/>

JapanKnowledge (学内限定)

千葉大学

教員と図書館員が協働することで、バランスの良いパスファインダーの作成が実現できる

71

### 2.2 ライティング連携(1)

2008年度  
 名古屋大学学生論文コンテスト

論文では、「文献を十分に活用して論じる」ことが重要と指導している

名古屋大学

72

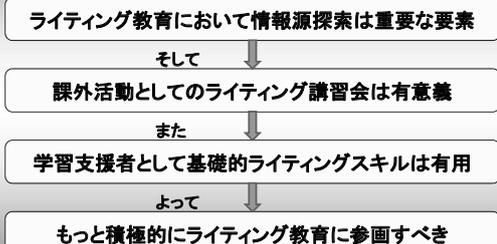


### 3.1 FD/SDという場で活動する



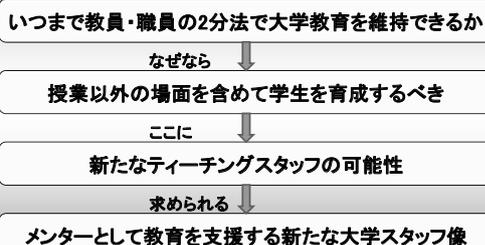
79

### 3.2 ライティング教育に参画する



80

### 3.3 新たな大学スタッフ像をつくる



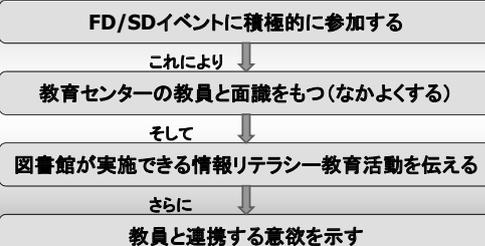
「ライティング教育を基点とした学習支援とFD活動の展開」の「論点整理」から

81

## 4. 連携実現のための戦略

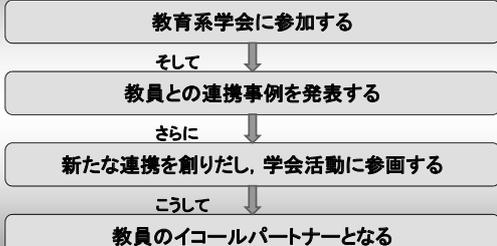
82

### 4.1 教育センターと連携する



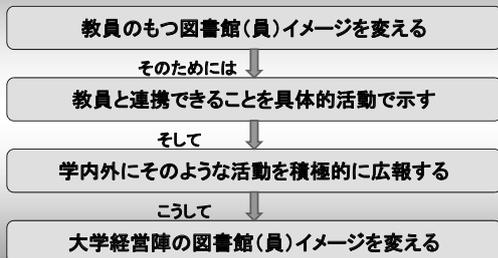
83

### 4.2 教育系学会に参画する



84

### 4.3 図書館員のイメージを変える



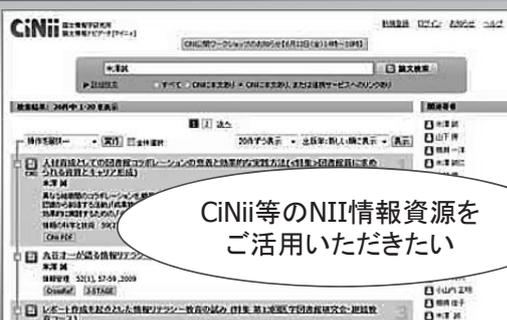
85

### 5.1 期待したいこと(1)

以上のような取り組みを  
各大学で行い  
その成果をあげていただきたい

86

### 5.2 期待したいこと(2)



87

### 6 参考文献

- (1)米澤誠, ラーニング・コモンズの本質, 名古屋大学附属図書館研究開発年報, 7, 2009, p.35-46
- (2)米澤誠, レポート作成におけるコピー防止策, 情報管理, 53(5), 2009, p.275-284
- (3)米澤誠, 学習・教育基盤としての図書館, カレントアウェアネス, 296, 2008, p.23-28
- (4)Researchmap米澤誠のサイト  
<http://researchmap.jp/bpxdx655>

88